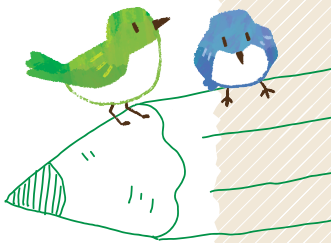


文部科学大臣賞
小学生の部



「がんばる妹、がんばれ私」

広島市立大州小学校
6年 越智 友葵さん

私には心臓の病気と知的障害を抱えた、ダウン症の和美という妹がいます。今年から小学生になりました。

私とは別の小学校に、バスに乗って通学をします。私よりも早く起きて、準備をして元気に家を出ます。自力で登下校できるようにするために、今は両親が交代で一緒に登下校の練習をしています。妹は、まだ自分の気持ちを思うように人に伝えることができません。バスの乗り降りや、長い通学路の信号や車も心配でなりません。いつも家から見送る時には「手をつないでいってよ」と妹にも母に

も父にもお願いをしていました。ある日、私も一緒に登校できることができました。すると、バスに乗り、降りる前には自分で降りますボタンを押してにこにこしています。降りるときには運転手さんに「あじがよ」と言っていました。通学路では、声をかけてくれたり、手をつないで歩いてくれたりする上級生もいて、たくさんの人たちに見守られながら登校をしていました。信号のない横断歩道では、止まってくれた車に向かって笑顔でありがとうと手を振ることもありました。成長している姿を見て、私は「すごいな」と思いうれしかったです。妹の良いところは、誰にでも笑顔を振りまいて、周りの人たちも笑顔にすることができることです。授業参観に行った時にも、全力で授業を楽しんでいました。私も同じようにできているかなと考えさせられました。「障害があるから」という理由で、心配しすぎたり守りすぎたりすることは、成長していくのを遅らせていることがあるかもしれないと感じました。成長して、社会生活を無事に送っていけるように、適切な支援が大事なのだと教えられました。

また、父にはいつも「何事も他と比べたらだめだよ」と教えられることがあります。比べる人をこなげれば、上も下も幸も不幸も無いそうです。ある時、妹に私の想いが届かず、思わず「ばかじゃのう」と口から出たことがあります。父に「今、友葵に相対性理論や量子力学を教えても解らんじやろう。今の和美に届く言葉で伝えていって」と、すごく叱られました。また、母は妹のことを「障害児を育てている気持ちはないよ。一人のひとを、娘を育ててるんだよ。じゃけえ、ひいきも区別もしないし友葵も和美も一緒だよ。みんな大好き」と言ってくれます。私は持つていて妹は持つていないもの、妹はできて私にはできないこともあります。その逆もたくさんあります。助け合いながら、補い合いながら暮らしていきたいと思っています。

妹がいるおかげで、学べることがたくさんあります。けんかをすること、腹が立つこともありませんが、私は笑顔がいっぱいの妹が好きです。和美のお姉ちゃんて良かったです。これからもうろくに